仍可謂与適信

~環境学館いずみ運営ボランティアによる「いずみガイド」~

9月の売むゴト

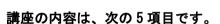
9月3日(日)開催 生活環境講座

環境学館いずみで、今年度2回計画されている生活環境講座の第一回目が開催されました。

テーマは「海なし県から川でつながる海洋マイクロプラスック汚染を考える」です。

講師は、埼玉県環境科学国際センター水環境担当の 田中仁志先生です。

講座には、まだ残暑厳しいところ、15名と大勢の方に ご参加いただきました。やはり、近年環境問題として 関心が高まっているテーマということだと思います。



- 1. 埼玉県は川で海とつながっている
- 2. 海とのつながりを示す魚たち
- 3. 海洋プラスチックごみ問題
- 4. 海なし県は海洋マイクロプラスチック汚染とは無関係でよいか?
- 5. マイクロプラスチックを減らすには?

次に、田中先生のご説明の一部を紹介します。

- 〈1. 埼玉県は川で海とつながっている〉
 - 埼玉県は西高東低で、坂戸は西に源流のある荒川水系の台地と低地の境に属し、水質は良好である。
- <2. 海とのつながりを示す魚たち>
 - ・埼玉県でも太平洋と直接つながっている利根川水系では、川と海を行き来するウナギやサケがいる。
- <3. 海洋プラスチックごみ問題/
 - 4. 海なし県は海洋マイクロプラスチック汚染とは無関係でよいか?>
 - ・浜辺に漂着したプラスチックが散乱している。

埼玉県の河川でもプラスチックごみがたくさんある。





田中仁志先生



漂着しているごみを調べてみると、ペットボトル(3~10%), プラスチック製品(3~23%)、発泡スチロ

- ール(~20%)と、プラスチック類が多い。
- 動物への被害として、プラごみが 生物に絡まったり、誤食したりの 影響がある。

マイクロプラスチックとは、大き さ 5mm より小さいプラスチックであ る。最初から小さいものと、古く なって粉々になるものもある。





(例 洗濯はさみ)

- 〈5. マイクロプラスチックを減らすには?〉
 - ・今日から始められることを考えよう!

3R ~私たちが取り組める第一歩~



田中先生のご説明が終わってから、参加者からの質問を受けてもらいました。

Q1 一人ひとりがプラスチックごみを減らさないといけないが、行政の意識も重要と思います。 環境科学国際センターとして、どういった働きかけをしていますか? A 自治体とのごみ協議会や市長の会等で話すことがあります。

Q2 プラスチックごみの問題に対して、どういった働きかけがいいでしょうか? A 小学校への教育は大切です。

Q3 「ゴルフ練習場のマットはプラスチックで出来ており、擦れると細かくなる」「排水関係で細かいプラスチックが流れ出る」といったことに対して、法律や条例で規制できないでしょうか?

A 今のところ特にできていないです。

まだまだ質問がありそうでしたが、 講座終了の時間となってしまいました。



講座風景

田中先生の写真やデータを基にした解かり易いご説明を聞いて、改めて世界的喫緊の課題である海洋プラスチック汚染について、「何とかしないと!」との思いを強くしました。

一人ひとりにまずできることは、プラスチックごみの減量「3R」でしょう。

記 環境学館ずみ運営ボランティア K.I